

医療経営士 と私

episode.06

医療経営の スペシャリストとして どう社会に貢献するかを 考えることが必要

医療経営士1級の取得者は全国で100人を超えた。
どんな思いで医療経営士に挑戦し、
今、何を考えているのだろうか。
医療経営士1級取得者に語っていただく。

1級試験に合格するには
アウトプットの練習が不可欠

——最初に、自己紹介をお願いします。

千葉県佐倉市にある社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院という377床の急性期病院に医師として勤務しています。現在は病院の副院長と併設の健診センター所長を兼任しており、外科医としての臨床とともに管理職として病院と健診センターの運営を行っています。

コロナ禍で当院は、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病床を確保したほか、発熱外来を設置して感染症対応に注力してきました。おかげさまで地域の信頼を得ることができ、一時落ち込んだ患者数も今は戻っています。

——医療経営士との出会い、取得を目指した理由を振り返っていただけますか。

2008年に健診センター所長、12年に病院の副院長に就任して管理職の立場になり、経営学を学ぶ必要性を感じていた時に、当時の健診センターの事務長であった池田孝行さん(現・社会福祉法人聖隷福祉事業団保健事業部総合企画室室長 兼 聖隷予防検診センター事務長)に紹介してもらったのがきっかけです。

それまでは一般的な経営学の本やセミナーで勉強していたのですが、2年ごとの診療報酬改定やDPC制度など医療経営と企業経営では異なる点が多く悩んでいました。一方、医療経営士の勉強はまさに私の求めていた医療の経営学そのものでした。3級の勉強をして合格すると、

次は2級、できれば1級まで挑戦したいという気持ちになります。特に管理職として病院の運営を担うとなると、1級まで取らねばならぬと思ひ、勉強しました。

——挑戦するなかで苦労したことは何ですか。

社会人になって仕事をしながら新たな資格取得の勉強することは容易ではなく、仕事の空き時間や休日を利用してコツコツ勉強するしかありません。3級、2級は医療経営士テキストや『なるほど、なっとく医療経営Q&A50』などで勉強して1回で受かったのですが、1級は難しかったです。テキストや東日本税理士法人の長英一郎先生の問題集での勉強に加え、当時、中央大学ビジネススクールで開かれていた長先生の1級対策講座に参加し、時事的なテーマの講義や論述問題の書き方などを教えてもらいました。私の力不足で第7回の1級試験は1次で落ちてしまったのですが、再度の挑戦に向けて勉強を開始していたところ、コロナ禍でも長先生主催のオンラインの勉強会が開かれ、それに参加して多様なテーマのもとで勉強させてもらい、第8回の1級試験に合格できました。

1級試験は1次が記述、2次がプレゼンテーションとなっていて、3級、2級の選択問題での試験と本質的に異なると感じています。3級、2級では知識が問われるのに対し、1級は知識に加えて、問題に対して自分で考えてアウトプットする能力や、時事的な話題を整理・分析する力が求められます。そうした能力は1人だけで勉強してもなかなか身につけません。その



Arita Seiji

有田誠司さん

社会福祉法人聖隷福祉事業団

聖隷佐倉市民病院 副院長／外科部長／健診センター所長

医療経営士1級

ありた・せいじ ● 1986年、千葉大学医学部卒業後、同大学医学部第二外科に入局し、外科医の研鑽を積む。94～99年、米国UCLA Medical Centerに留学、1型糖尿病に対する膵島移植の研究・臨床に従事。国立佐倉病院外科医長を経て、2004年、聖隷佐倉市民病院外科部長。08年、健診センター所長兼任、12年4月より現職。医療経営士1級

点、私は長先生のゼミのなかでさまざまな職種・業種の方とディスカッションするなかで、自分の考えをまとめ、アウトプットする機会をつくることができました。ぜひ1級を目指す方々には、さまざまな勉強会に参加して、発表や議論を通して知識をアウトプットする練習をしていただくという良いのではないのでしょうか。

横のつながりを持つことは、モチベーションの維持・向上という観点からも効果があります。仲間をつくるのが大事だと思います。

医療経営士を社会に広めるとともに後進の育成にも取り組みたい

——医療経営士として、現在どのような取り組みを行っていますか。

1級を取得してから約1年経ちますが、自院の経営向上のため、経営企画室と協力してさまざまなアイデアを実践してきました。

その一つが、各診療科のトップを集めた診療責任者会の実施です。損益計算書をはじめ財務諸表を用いて経営状態を報告したり、具体的な数値目標を示してどのように改善を図っていくかを一緒に考え、実行につなげることを狙っています。医師は養成課程において経営について学ぶ機会がほとんどないので、財務諸表を読み解いたり、目標に向けて何をすべきか具体策を1人で考えるのは難しい。私は副院長という立場でもありますが、せっかく医療経営士1級を取得したので、その知識をもとにできるだけ丁寧な説明をすることで、ともに経営を考え

る仲間を増やしていきたいと考えています。

実際に効果も出てきており、昨年4月からの年度予算目標は順調に達成しつつあり、入院患者数確保、救急車の受け入れ台数増などの成果もあらわれています。また、経営に興味を持って実際に医療経営士を取得した医師も出てきました。今後も、こうした活動を続けていきたいと思っています。

ほかにも、さまざまな勉強会を通していろいろな職種、特に医療職以外の方々とも仲間になったのが大きな収穫でした。医療というフィールドは一緒でも、立ち位置や役割によって見えてくるものは異なります。そうしたさまざまなステークホルダーの横のつながりをつくっていくことにも貢献したいです。

——医療経営士1級取得者としての今後の目標を教えてください。

医療経営士1級取得は難関ではありますが、取得して満足するのではなく、その資格をどう活かすのが大切だと思います。

私自身は1級まで取得した者の使命として次はこの資格を活かし、医療経営のスペシャリストとしてどう社会貢献できるかを考えるべきだと思います。それには、自院の経営改善だけにとどまらず、自分が所属する病院がある医療圏、ひいては国の医療政策に対しても提言できるような存在になることが私の目標です。

それは1人でできることではありませんので、この資格を社会に広め後進を育てることに注力したいと考えています。